

衝突・乗揚事故に注意!

衝突・乗揚事故を防止するために

事前の水路調査

事前に海図等により航海する海域の水路調査を行い、浅瀬等の危険な海域や定置網等の存在を把握しておきましょう。

見張りの徹底

航行中に限らず、漂泊・錨泊・操業・遊漁中も、常に**適切な見張り**を実施し、早めの避航動作をとりましょう。

船舶間コミュニケーションの促進

早期に船舶間の意思疎通を図り、相手船の動向を把握しましょう。

- ・ 早めに相手船にわかりやすい動作をとる
- ・ V H F や汽笛信号等を活用する
- ・ A I S 情報を活用するとともに、正しい情報を入力する

居眠りに注意

居眠り防止装置の使用や見張りを**交代し休息を取る**などの対策を講じましょう。

自動操舵使用時は注意

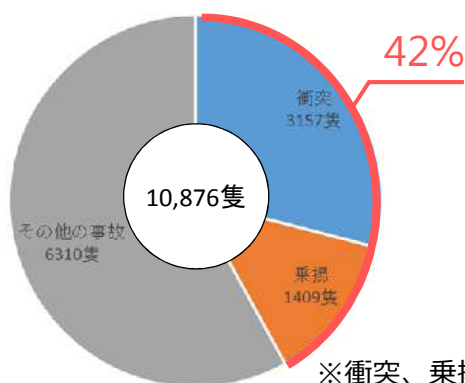
自動操舵使用時の事故原因は「見張り不十分」「居眠り運航」が多数を占めることから、自動操舵装置付属の**アラーム装置の導入及び利用**を心がけましょう。また、次のような場合は、**手動操舵**に切換え、安全に操船しましょう。

- ① 港内
- ② 船が多い海域
- ③ 荒天、視界不良時
- ④ 周囲に浅瀬等がある場合
- ⑤ 潮流が強い狭水道
- ⑥ 他船が接近するとき
- ⑦ 針路を変えるとき

過去5年間における船舶事故の特徴

※平成24年～平成28年

○ 船舶事故の種類



○ 衝突・乗揚事故の原因

